

壊させ斯うして幾度となく繰り返す中には當人も其れを壊すのが面白くなつて来て終には教師と一緒に組立て猶進んでは獨りて組立てる様にあり後には破壊的の嗜好が變つて組織となります又懦弱性の者なら種々な方法で耳の感じや支體の感じを惹起させる工風をなし是れを其嗜好に投じて段々注意を引くやうにするのです。

▲教育の効果 此種の白痴は親に對しても兄弟に對しても情といふものがありませす現に瀧野川學園に入園した一兒童の前記に如く入園の當時は親を戀しくも思はず友達の情報もありませんでしたが入園後二年間を経て他の兒童の許へ其母が尋ねて来たのを見て自分にも母が有るかと思ね果ては非常に戀しがつて暑中休暇の來るのを待ち詫びて居りました。

來客に對する時

高等女子師範學校教授

佐方しつ子氏談

來客の應對には其の人を嬉ばせ樂ません事が肝要であるから不快を感じさせぬ爲めには客室を綺麗にして常に裝飾等を心掛け置く

可べきである。

日本の客室では床や棚の裝飾が主であるから季節々々に從て掛物を替へ花置物等を整へ掃除を行届く様にして棚にも相應な書物手函類の美術品を飾り客を待つ間も目を嬉ばせるやうにする。

又主人(婦人に就て言ふ)は立派なものには及ばぬ迄も人に接する事の能きだけ髪や衣服を整頓して置いて不時の來客をも餘り永く待たせぬやうにする。

客に出すものは冬ならば第一に火鉢煙草盆茶それから菓子といふ順序にして懸るに待遇し器物は立派なものには及ばぬが火鉢なら灰や塵埃の附かぬやうに心持よくして火も消えぬやう、分量も適度に灰にも塊の無きやう注意する事である煙草盆の火は殊に此の注意が肝要である常より切炭の相當の大ききものを作つて置いて灰を善く馴らすと二三時間は消えないものだ。

茶器なども茶渣や缺欠なきやう洗ひ方に氣を着ける又食器類と一所に洗ふと生臭い事などがある、菓子器も同様に綺麗にして蒸菓子なら一人の客に三つか五つ場合を見て紙へ載せて出すも可い。

菓子を出したら又茶を出して先のを下げる丁寧にすれば十五分に二度も三度も茶を替へる必要がある、親しい間柄なら茶盆を置いて主人自ら入れて勤めるも可い。

談話は餘り親密でない間では景色の話新聞雜誌に關したる題目から始めて其内に話に花が咲き興味を湧いて來る。若し又困る場合には寫真や繪葉書帳等を持って來て話の補助とするのも可い。總て主人として客を嬉ばせ樂しませるやうに仕向けるのが應對の好い處である。(讀賣)